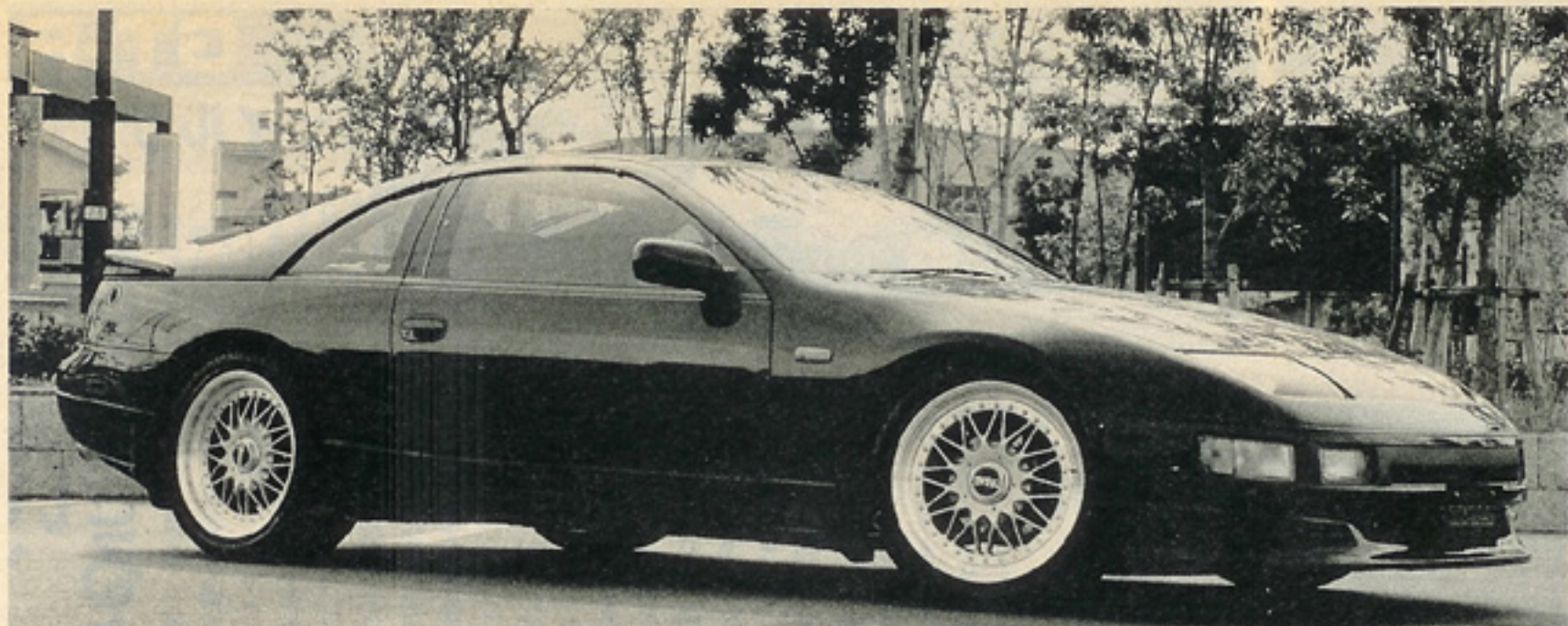


トリアルが考えるスポーツ化チューンとは



Z32

トリアル

G.T.の定義、それはすべてがバランスされて



東大阪店の有馬さん。これから社長と二人で新しい形のチューニングを作ってくれるに違いない。

トリアルにバランス良くチューニングしてくれるショップはいくつもあるけど、このトリアルは車と一緒にお客さんまでもチューニングしてくれるという変わり種ショップだ。

社長の牧原さんと店長の有馬さんの実力派コンビが何事にもチャレンジしていく姿勢でチューニングをおこない、いくつもの新しいチューニングの形を作

り上げてきた。このチャレンジ精神はオープン当時とまったく変わっていないという。トリアルというショップ名も挑戦するという意味で付けられたものだろう。

そんな二人がついに先日、アダルト感覚満載のGTスポーツカーを完成させた。ベース車はそのスタイリングと動力性能が限りなくスポーツカーに近いZ32をセレクトした。

社長の牧原さんいわく「GT-Rも一時は考えたんだけど、あのスタイルはスポーツカーというイメージじゃないでしょ。たしかに動力性能はZに比べたら数段上かもしれないけど、僕はスポーツカーはスタイリングが一番重要だと思っているだよね。だから、Zを選んだんだよ。スタイル的にはZのほうがスポーツカーって感じがするでしょ」と語ってくれた。

このZ32は、アダルトな雰囲気、かつGTスポーツカーにふさわしいだけのポテンシャルを持っている。そのため、普通のチューニングでは絶対に手を付けられない所まで徹底して行われている。

と効くタービンは似合わない、スムーズに立ち上がるタービンの方がアダルト仕様のクルマにはマッチする」という牧原さんの考えからタービンは風量のあるTD05Gに交換されているが、エンジン本体には手を入れていない。

これはメンテナンス性を考慮した結果で、エンジン内部にまで手を入れればそれなりにメンテナンスが必要になってくる。しかし、今回のようなチューニングならオイル交換程度で十分だし、エンジンも壊れにくい。そういった点からタービンだけを交換するチューニングプランを組んだのだ。

このようなチューニングは、このクルマ以外にもトリアル

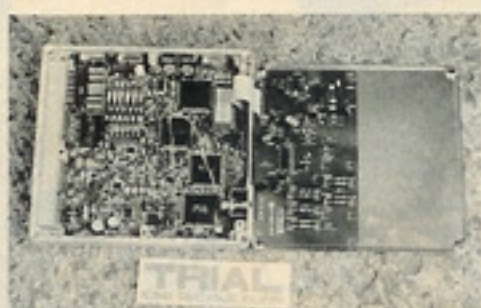


室内を見ても「走り」というより「フルーzing」というイメージの方が強い。

にはたくさんある。では、なぜこのクルマだけがアダルト仕様なのかというと、居住性という点も考えてチューニングしているからだ。

ロングクルージングでも疲れないように、シートはレカロのCSE本革シートに交換し、オーディオもナカミチのスーパーオーディオシステムを組んでいる。音には疲れる音質と疲れない音質があるそうで、音質を検討した結果、このシステムを組むことにしたそうだ。

今回はアダルト仕様と社長はいつていたけど、このZ32が持っている高いポテンシャルと居住性はまさにGTスポーツカーと言うにふさわしいクルマだと思ふ。



トリアル自慢のCP。520psの大パワーを獲得できたのもこのCPのアシストがあつてこそ結果だ。

足元もシツクな感じのメッシュタイプでキメている。

